

【ジャケットイラスト】



【台本】

///トラック①

- (ナレ) あなたは学校の先生。
- 生徒たちは皆、夏休みを迎えていた。
- 連日の真^ま夏^{なつ}日^びが続く中、ある日あなたは、
- 2人の教え子を学校のプールに呼び出した。
- 2人の名前は、「櫻井^{さくらいはる}春」と「天野^{あまのなつ}夏^き希」。
- どちらもあなたと、特別な関係を持つ女の子だった。
- この日あなたは……
- 見たことない女の闘いを目にする。
- 春 「……今日は先生との、特別レッスンだと思ってた」
- 春 「……誰？ その女」
- (ナレ) 櫻井春が、プールサイドからあなたの方へ声をかけた。
- 夏希 「先生、私と合わせたい女って、そいつ？」
- (ナレ) あなたの隣の天野夏希がその声に反応する。
- 春 「ああ……。前に言ってた女か」
- 夏希 「聞いてたんだ。じゃあ話は早いね」

春 「……そうね」

夏希 「今の彼女は私だから。よろしく」

春 「……先生は私のもの。2番目の女は帰れば？」

夏希 「ふっ。先生、こんな女が良かったんだ」

春 「……^{ふゆかい}不愉快。この女のどこがいいの？」

夏希 「^{からだ}身体の相性じゃない？ あと、おっぱいも大きい」

春 「……1年前まで、ほぼ毎日、私とセックスしてた。

あと、おっぱいも私のほうが大きい」

夏希 「でも今年、先生がうちの学校に来てからは、

私と毎日やってる。元彼女さんはどうなの？」

春 「……………今朝やった。お前が来る前。気持ちよかった」

夏希 「へえ」

春 「……先生も、やっぱり私の方が気持ち良いって言ってた。

おっぱいも、私の方が大きいって」

夏希 「ああ、お世辞で言ってるのがわからないバカなんだ？」

春 「……遊ばれてるのがわからないバカに言われたくない」

夏希 「ああ、ごめん。言ってなかったけど……」

夏希 「私たち、さっきまでやってたから♡

マウント取れたと思った？」

春 「……それで？」

夏希 「最高だったよ。先生も、何回逝ったかわからないって」

夏希 「あ！そうそう……先生、窒息プレイ大好きじゃん。

先生言ってたよ。私のおっぱいで絞められたほうが、

苦しいって」

春 「……わかってない。

私の爆乳で絞めたら、そんなこと言う余裕無いから」

夏希 「なに、怒った？ おっぱいに自信あるの？」

春 「……自信もなにも、圧勝してる」

(ナレ) 春は唐突に、夏希の水着を掴み胸のあたりを引っ張った。

ボロンと大きく張りのある胸が^{こぼ}零れ落ちた。

春 「……………貧乳」

夏希 「Kカップのおっぱいが見えないんだ」

春 「……こんなんじゃ、先生は満足しない。

同じKカップでも、私のほうがボリュームがある」

夏希 「カップの数え方、教えてあげようか？ 貧乳」

春 「……あ、怒った。本当のこと言われたから」

夏希 「ふふ……先生。やっぱりどっちも譲^{ゆず}らないからさ、
喧嘩で決めていいよね？」

勝った方が先生の正式な彼女ってことで」

春 「……先生。バカは身体^{からだ}で覚えないと、わからない。
……どっちが先生にふさわしいか、こいつに教える」

夏希 「良かった～こいつなら遠慮なく潰せる」

春 「……私、手加減できないから」

夏希 「じゃあさ、おっぱいで絞め殺した方が勝ちでいいよね？」

春 「……望むところ。わかりやすくていい」

夏希 「『噛みつき』と『目つぶし』はだけ無しにして、
それ以外は何でもあり。それでいいよね」

春 「……それでいい」

夏希 「そっちから、何かある？」

春 「……あ。忘れてることがあった」

/// S E ビンタ音

夏希 「ぶふっ!!」

春 「……『挨拶^{あいさつ}』、忘れてた」

夏希 「……そうね、『^{あいさつ}挨拶』してなかったよね」

/// S E ビンタ音

春 「ぷっ!!」

夏希 「遅れて悪かったね。ぷっ!! うっ！」

/// S E ビンタ音

春 「……ごめん、耳に入った。ぷっ!! ぷあっ！」

/// S E ビンタ音 2 回

夏希 「ごめん、2 回打っちゃった」

春 「……まどろっこしい」

夏希 「そうね……『ここ』で潰し合うんだったよね」

(ナレ) 夏希は自分の胸を指さした。

夏希 「んっ！」

春 「ん……っ！」

(ナレ) 35 度を超える真夏のプールサイド……

ビンタを打ち合った春と夏希は、次に互いの^{からだ}身体を

抱きしめ合った。胸と胸を合わせて、えぐり合うように……

夏希 「まずは、ウォーミングアップから始めようか」

春 「……絞^しめてみなよ貧乳」

夏希 「ああ、まだ挑発するんだ。いいよ、すり潰してあげる」

春 「……ふっ!! ふう……ふう……ふうっ……ふんっ!!

……ふう……ふう……はあ……ふんんっ!!」

夏希 「……ふっ!! ふう……ふう……ふうっ……ふんっ!!

……ふう……ふう……はあ……ふんんっ!!」

春 「……息あがってる。ふう……苦しいんだ？」

夏希 「ふう……ふう……汗かいてるくせに、偉そうだねえ」

春 「ふう……ふう……押し込んでるのは、私」

夏希 「んっ……ふふ、そう見えた？」

夏希 「これ、作戦だから」

春 「くっ!! んっ！」

(ナレ) 春の^{からだ}身体が浮き上がった。そのまま絞り上げる……

夏希 「私、喧嘩には慣れてるから」

春 「……んおお……はあはあ……おえ……ッ！」

夏希 「あは! 潰れちゃった？」

春 「はあはあ……効いてない……」

夏希 「ああ、心配しないで。苦しいのはこれからだから。

んんんッ!! ああッ!!」

(ナレ) 春は夏希の腰に両足を巻き付けた。

全身で夏希の身体^{からだ}を絞^{しぼ}り上げる。

春 「……潰し合いなら、私も慣れてる」

夏希 「んん……おええッ……ふんんっ！」

春 「くっ……ッ！ おえっ」

(ナレ) 怯むことなく、夏希も絞め返す……

発達した胸同士が、居場所を奪い合うように争った。

夏希 「ふう……ふう……はあはあはあ」

春 「ふう……ふう……はあ……はあ……」

夏希 「ンンンッーッーッ！」

春 「……っ！ あああッ！」

(ナレ) 夏希が春を抱えて倒れ込んだ。

胸の潰し合いはやめなかった。熱いコンクリートの上で、

転がりながら上を取り合う……

夏希 「ふう……ふう……くうううう！ はあはあ！

はあはあ！ んんんっ！ はあはあ！ くっ！」

春 「はあはあ……んんんっ……んんっ…… くううっ

はあはあはあ！ うぐっ！ はあはあ」

(ナレ) 彼女達は本能的にわかっていた。

上を取られたらまずいと。

春 「はあはあ! ふんんんんんっ!!」

夏希 「はあはあ! 残念♡ 上、取られちゃったね？」

春 「はあはあ……くっ……うっ……お……」

夏希 「耐えてみなよ……♡」

(ナレ) 夏希は尻を突き上げた。上半身をねじり込むように、

胸に体重を預け、強く絞めあげた……

春 「くっ……ぷっ……おえええええッ!!」

夏希 「ちょっと♡ ^{だえき}唾液、^{きたな}汚いんだけど」

春 「はあはあ! はあはあ!

……お前の汗よりは、汚くない……んっ! おえっ!」

夏希 「減らず口、聞けなくしてあげるよ……」

(ナレ) 蛇のように春の身体を絞めつける夏希。

春 「あう……っ! ……ふう……ふう……か、かあ……

ん……おええええええッ!!」

夏希 「なに、もう終わり? 格の違いがわかった?」

春 「ふう……お前に負けてるとこなんて、一個もない。

ふんんんっ……!!」

夏希 「くっ……ふ……あんたは私の下よ」

春 「……返してやる……ッ！ くっ！ おえっ！」

夏希 「その前に死ぬよ♡ ふう……ふう……ふう……」

(ナレ) 春のブリッジを、何度も夏希が抑え込む。

春 「ぐっ……！ おええええッ！」

(ナレ) コンクリートに身体^{からだ}を押し込まれる度、

苦しみが春を襲った。

夏希 「ねえ、おっぱい舐めながら泣いて謝るなら、

許してあげるよ♡」

春 「ふう……ふう……はあはあ。いらない……

お前だけは殺すから」

夏希 「ふふ……いい条件だと思ったのに……

あああああああッ！」

春 「んううううーっッ！」

(ナレ) 夏希の^{ひだりあし}左脚に、春は絡みついた。強引に身体^{ひね}を捻り……

春 「……この……ッ！」

夏希 「ハアハア……んあああっ!!」

(ナレ) 春は上を取り返した。無言で胸を重ね、腕を回す……

そして怒りを込めて抱き絞め返した。

夏希 「ぐっ! ぶぐ! ぶえええええええッ!

おえええええええッ!!」

春 「……お前こそ^{きたな}汚い」

夏希 「はあはあ……ごめんね、これお^わ詫び」

春 「ぐうううううっ! うえええええッ!!」

(ナレ) ギロチンのように春の腰を太ももで絞め返す

夏希 「おええええええッ!! こ、^{こんくら}根比べかしらね」

春 「……お前には……まけない……おえッ!!」

春 「ふう……ふう……はあはあ……ふうふう……

おええっ……ふんっ……く……んええッ……」

夏希 「ふう……ふう……ふうふう……おえっ……ふんっ

……ふうふうふうふう……んんんんっ……」

(ナレ) 爆乳のプライドを賭けた潰し合いは……

春 「おえええええッ!!」

夏希 「んおおっ!! おええッ!!」

(ナレ) 2人の予想を超えて、長く続いた……

夏希 「^{あわふ}泡^ふ噴きなよ……ほら……んええええッ!!」

春 「はあはあ……お前がおちろ……うえええええッ!!」

(ナレ) いつもは相手を瞬殺していた。

^{だえき}唾液を相手にぶちまける。そんな経験したことがなかった。

夏希 「はあはあはあはあはあはあ！」

春 「はあはあはあはあはあはあ! んああああッ！」

夏希 「はあはあ……ほら、ひっくり返すよ……ふっっ!!」

春 「ふっっっ!! ぐううっ!! おええっ!!」

夏希 「ふんんんんっ!!」

春 「あああああっ!!」

(ナレ) 春は上から落とされたが、踏ん張った。

夏希と春が横向きに抱き合い、そのまま抱きしめ合った……

2人の力が拮^{きっこう}抗し、どちらにも動かない……

それでも大きな乳^{ちぶさ}房が、相手を飲み込もうと衝突を続ける。

炎天下の中、10分近くそのまま経過した。

夏希 「はあ……はあ……はあ……はあ……ふう……ふう……

ふう……ふう……」

春 「はあはあ……はあ……はあ……うっ……ぐ……はあはあ

はあはあ……はあはあ……ンンンッ!!」

夏希 「お、おええええええええッ!!」

(ナレ) 春の^{こんしん}渾身の絞めに、夏希も即座に応戦する

春 「 ああああああああッ!! “おえええ……ッ!!」

(ナレ) 胸と胸が潰れ合い、肺に空気が入らない……

それでも互いに、手を緩めることはなかった。

夏希 「 おお……ッ!! ん”えええっッ!! かあ……ッ!

”あっ……ッ! おえええっ!!」

春 「 お”ええええッ!! か……かあ……っ! うぐ……

”えええええッ!! おえっッ!!」

(ナレ) 呼吸の限界に達したそのとき……

夏希 「ぶはあああっ! はあああ……はあ……はあ……!」

春 「ぶはあああっ……ッ! はあ……はあ……あああ……」

(ナレ) お互いの腕が同時にほどかれた。

///トラック① 終

///トラック②

春 「……はあ……はあ。……アップは、もういいよね」

夏希 「はあ……はあ……ええ、熱い一日になりそうね。

流石に抑え込まないと、仕留められないかも。はあはあ」

春 「……しゃべってないで、早く来い……はあはあ」

夏希 「あんたが来なよ、元彼女^{もとかのじょ}」

(ナレ) 2人は同時に、相手の水着へ手をかけた。

夏希 「あ～あ。この水着、高かったんだけどなあ……」

春 「……何？ 怖くなった？」

夏希 「ふふ……最後にいっておくね♡

おっぱいで殺されたくなかったら……」

夏希 「私の乳首舐めながら命乞いしなよ。

許すかもしれないから」

春 「……私も言っておく」

春 「……おしっこ出して土下座するなら、勘弁してあげる」

夏希 「……ああ。久しぶりに本気で潰したくなった」

春 「……やってみなよ、口だけ女」

(ナレ) 静かな睨み合いが続いた。

お互いにいつでも切り出せるが……動かない。

経験したことが無い緊張があった

そしてふと、日差しが雲で遮られたとき、戦いは始まった。

春 「んんんんんんんんッ!! くっ……ッ！」

夏希 「あああっ! はあああッ！」

(ナレ) 水着を掴み合って、互いの身体を振り回す……

いきなり2人の水着から大きな胸が零れ落ちた。

春 「……はあはあ……貧乳……やっぱり私の方が大きい

はあはあ……んん……っ」

夏希 「はあはあ……はあはあ……

そんなおっぱいで勝てると思ってたんだ？」

春 「……今潰してあげる」

夏希 「はあはあ……こっちのセリフ……」

(ナレ) もう水着だけではない。髪・耳、胸、掴めるところを

すべて引っ張りあった。

夏希 「っ! 痛^いったいわね! おっぱいに^{つめ}爪立てるな!!」

春 「……おまえこそ、乳首のさきっぽばかり……!

ひっぱるな……ッ! んくっ!!」

夏希 「はぁはぁはぁはぁ! ああ、痛かった?

もっと力いれてあげる」

春 「んんっ! ”ああああああああんっ!!

くううう……おかえしい……っ!! ……このバカ」

夏希 「ああああああッ!! だから、爪を、立てるな!!

”ああああッ!!」

春 「……乳首が……っ! くううううッ!!」

「はぁはぁはぁはぁ……ッ!! はぁはぁはぁはぁ!!」

夏希 「はぁはぁはぁはぁ……ッ!! はぁはぁはぁはぁ!!」

(ナレ) 首に腕を掛けて絡みつきながら、乳首を責めあう2人

両者の闘いは一層激しくなった。

春 「……くうううっ!! ちくびい!!

ああああッ! ひっぱるな……っ」

夏希 「はぁはぁはぁはぁ……じゃあ、ぶっ倒れなさいよ……」

春 「……お前が、這^はいつくばれ……」

夏希 「格下に……負けるわけないでしょ……乳首、

使えなくしてあげるよ」

春 「……私だって、そのつもり……はあはあ……」

先生に相手にされない身体^{からだ}に……してやる……」

(ナレ) 取っ組み合いの末、同時に膝をついた。

それでも、どちらも乳首への攻撃をやめない。

いやむしろ、お互いが同じことを考えていた。

相手の乳首を鷲掴^{わしづか}みにし、なんとその先端を……

春 「いゝやあああああああああッ!! !!」

夏希 「ゝ ああああああああッ!! ああああ!! !!」

(ナレ) 熱いコンクリートに擦り付けた

春 「……あああッ!! あああッ!! あつい……ッ!!」

夏希 「ゝ ああッ…ッ! ああっ!! 焼ける……ッ!!」

(ナレ) たまらず胸^{かば}を庇う2人だが、春が先に動いた。

春 「ふんんんんんんんんッ!」

夏希 「うぶうううッ!!」

(ナレ) 夏希の顔を脇に挟んで倒れ込む……

それだけで大きな胸が夏希の呼吸を奪った。

春 「……^{ざこ}雑魚。そのまま死んで……

どんな気持ち？

勝てると思った女のおっぱいで死ぬのは？」

夏希 「んぶううっ！ んぶう！ ぷはあああ！ はあ！

んぶううっ！ ぶうううう！ はあはあ！

こんな程度？ 全然苦しくないんだけど はあはあ！

むぐうううううううっ!!」

春 「……私のおっぱい柔らかいから……逃げても無駄。

……水着、^{やぶ}破いてくれてありがとう。

^{なまぢち}生乳の方が苦しいから」

夏希 「ぶぐうッ！ ぶぐう！ ぷはああッ！ おええええッ!!

おええええッ!! ぶぐううううッ！」

春 「……ほら、死んで。先生も私のおっぱい責めの方が、

苦しくて喜ぶから」

夏希 「ぶはあああッ!! ぶううううう！ ぶうううう！

おえええええ!!」

(ナレ) 顔を左右に振って、必死に息を吸う夏希。

春も追いかけるように、器用に胸を押し当てていた。

しかし……



春 「はううう♡」

夏希 「ぷあああっ! はあはあ……

なに、そんな声出るんだ♡」

春 「……まんこに……水着が……ん♡

食い込む……ッ♡ や、やめろ……」

夏希 「はあはあ……力抜けちゃったねえ……♡」

春 「 あああああああああッ!!♡」

(ナレ) 怯^{ひる}んだ春の乳首を捻^{ひね}り上げながら、

夏希は上体を起こした。馬乗りになって、乳首を掴む。

夏希 「あんたへの乳首責めは、気持ちいい方が効きそうね」

春 「……んええええええ♡ “おおおッ♡ “おおおッ♡
おおおッ!!♡」

夏希 「あははあ♡ ねえ、逝^いってる場合?

私達殺し合いしてるんだよね?」

春 「んぶうううう!! ぐ、ぶううううッ!! ぶうう!!」

夏希 「お・か・え・し・が・た・め♡」

(ナレ) 夏希の爆乳に春の顔が埋まった。

夏希 「どっちのおっぱいが強いだろうね?」

春 「んぶううう!! んぶうううう! ううううう!」

夏希 「ほら、窒息しちゃうよ～♡」

春 「……ぐ、ぐぶうう……ぶはああッ!! おええええッ!!」

夏希 「誰が呼吸していいって、言ったの?」

春 「ぶうううう! んぶうう! んぶううう!」

夏希 「ねえ……誰が貧乳だって? もう一度言ってよ?」

春 「 あああ……”おえええッ！ んぶぐうううううう！

ぶうううッ！ ぶうううーーーッ!!」

夏希 「あははあ♡ 私の胸で死ねるなら満足でしょ？

男はみんな喜ぶよ？」

春 「ぶぐ……ぶっ……”んんッ……！ ぶぐッ……！」

夏希 「ほら……^{からだ}身体、震えてきたね……

そのまま漏らして死になよ」

(ナレ) 春は夏希の水着を両手で掴んだ。

それを思い切り引っ張ると、股間に水着が食い込んだ……

夏希 「んあああん♡ はあ♡ んっ……♡ ふふ♡

私のマネしかできないんだ？」

春 「 んあ……ッ……！ ”ああア……あああ……

げほッ！ げほっ！ おえええッ！ ぶううううう！」

夏希 「無駄だよ……♡ んんッ……♡

あんたと違って、すぐ逝く女じゃないから」

春 「……”ん”ん”んんんんんんん!!」

夏希 「あ～、苦しそう♡ ふう♡ ふう♡ ねえ……

どっちのおっぱいが先生にふさわしいか、わかった？

ああんッ♡」

(ナレ) 夏希の水着が、春の力に耐えきれず千切れた。

夏希 「はあはあ……残念でした♡」

春 「んんんッ! んんんッ! んんんッ!

んんんーっつッ!」

夏希 「はううううッ!!♡ こ、いつう……ッ♡」

(ナレ) 春は夏希の股間に指をねじ込んでいた。

春 「んぶうううう!! ぶうううッ! ぶううう!!」

夏希 「はあ……ッ♡ あああ♡ んああああッ♡

この……死にぞこない……♡」

(ナレ) 夏希の胸の圧迫が僅^{わず}かに緩んだ時、

春が胸を手で押し上げた。

春 「はあはあはあはあはあ!! おゝええええッーッ!!

けほッ! けほッ! この程度の絞めで……ハアハア……

死ぬと思った?」

夏希 「死にかけの豚が……はあはあ……はあはあ♡ ンッ♡」

春 「……しっかり感じてるね。すけべ女♡

はううううッ……♡」

夏希 「はあはあ……なによ、手マン……気持ちいいの？

んんん……っ♡ はあはあ♡ はあはあ……♡」

春 「……お前こそ、力、抜けてる。はあはあ♡

……私の指に、まんこが吸い付くんだけど……

……気持ちわる。 んっ♡ おお……♡」

夏希 「ほら……次逝ったら、また絞め殺すよ……」

春 「はあはあ……やってみろ……へたくそ」

(ナレ) 2人は相互に手マンで責めあった。

反応を見ながら、弱いところを探り、そこを刺激する。

こいがたき

恋敵の女に逝かされるなんて、この上ない屈辱だった。

春 「はあはあ♡ んん……♡ んっ……アッ……はあはあ、

んんっ……♡ “あああ……♡ おお……”おおお……

んんっ……はあ♡ うんっ……♡」

夏希 「はあはあはあ……♡ んうっ……♡ あああ……

“あああ……♡ んんッ……アッ……はあはあはあ♡

んおおお……♡ あああ♡ あああっ♡」

春 「んッ！ “おほおおおおおッ!!♡」

夏希 「はあはあ……あんた、ここが弱いんだ……♡

わかっちゃった♡

んほおおおおおおおおおッ!!♡」

春 「……はあはあ♡ お互い様……

お前の弱点……みつけた……んおおおッ!!♡」

夏希 「はあはあ♡ 効いてないけど、別に……”おおおッ!!」

春 「はあはあ♡ 私だって……”おおおッ!!」

夏希 「んぐっ!……逝けえ……はあはあ……逝け……! 逝け!

はあはあ♡ 逝けええ! はあ♡ あんたには……

絶対にまけない……はうう♡ さっさと逝けえ!」

春 「あああ……逝け……お前が……さきに逝け……あああ♡

逝けえ♡ 先生の前で……恥かかせてやる……

はあ……逝け逝け逝け!!」

夏希 「はあはあはあ♡ ”んおおおおおおおッ♡

あああ♡ ぐぞお……奥まで……^いれ挿入れるな……!!」

春 「……はあはあはあ♡ このお……はううううう♡

かき、まわすなあ……!! ”んおおおおおッ♡」

夏希 「ああああ……♡ だめえ……♡

逝っくううううー!!♡♡(絶頂)」

春 「……だめ♡ ……だめえ……♡

逝くッ♡ 逝っちゃううううう♡(絶頂)」

(ナレ) 春と夏希は同時に絶頂を迎えた。

盛大な潮吹きをあなたの前で見せてしまう。

そして全身の力が抜け、両者共に倒れた……

春 「はあはあはあはあはあはあ♡」

夏希 「はあはあはあはあはあはあ♡」

(ナレ) だが、2人ともすぐに立ち上がった。

倒れていたら、あの胸で潰されるのが目に見えていた。

示し合わせたように、唇を合わせる……

春 「んじゅっ……むちゅ♡ あんむ……♡ ちゅぱっ……

むちゅ……♡ んじゅるるるる♡ むちゅううう……

ぶじゅううう! じゅるるる! はあはあはあはあ♡

んじゅるううううう!!♡

はうううッ♡」

夏希 「じゅっぱ♡ ちゅうう♡ んじゅる♡ むちゅ♡
ちゅぱ……♡ じゅるううう♡ ああああむ♡
ぶちゅう♡ じゅるるるるるう! はあはあ♡
じゅるうううううううう!!♡
はううううッ♡」

(ナレ) さらに乳首の先端同士を擦り合わせながら、
手マンを再開する2人
すべては愛する人のため……

そして、憎^{にく}き恋^{こいがたき}敵を排除するためだ

春 「んじゅ♡ あああ♡ あああ♡ ちゅぱっ……♡
…………”おおおッ!!♡♡ ぶええええッ!!」

夏希 「むじゅ♡ はあはあはあ♡ ちゅぱあ……♡
……ッ! ”おほおおおッ!!♡♡ ぶえええええッ!!」

(ナレ) 我慢できず、唾^{だえき}液をお互いにぶっ掛け合い……
脚がガクガクになっても、手マンを続けた……

春 「……”えええ♡ ”えええ♡ ”えええ♡
おまえに……だけは……」

夏希 「 あああ……♡ “あああ……♡ “おおおお♡

あんたに……だけは……」

春 「……ぜったいに……ゆずらない……ッ！」

夏希 「ぜったいに……ゆずらない……ッ！」

(ナレ) 壮絶な手マン勝負は、永遠に続くようだった。

しかし……

夏希 「か……かあ……♡ “おッ♡ “おおお……ッ♡」

春 「……あえッ♡ ……んお……”おおお……ッ♡」

(ナレ) それは突然終わりを迎えた。

両者が後ろ向きに、ひっくり返った。

まさに限界だった。

夏希 「あへええええええーッ!! ♡♡ (絶頂)」

春 「 おほおおおおおッーッ!! ♡♡ (絶頂)」

(ナレ) 2人のぶちまけた潮^{しお}が、相手の顔に降り注いだ。

綺麗な相打ちのはずが、彼女たちにとっては、

負けたような感覚だった。

すぐに身体を起こさないといけない……

だが、痙攣^{けいれん}して動かなかった。

春 「はああ！ はあ！ はあ！ あへえ♡ あえ♡ あえ♡」

夏希 「 おおお！ はああ！ はあ！ はあはあはあ！

アッ♡ おお”お♡」

(ナレ) 相手を睨みつけながら、ゆっくりと身体を起こした。

互いに水着がビリビリに破けている。

夏希は、破れて使えなくなった水着を投げ捨てた。

何一つ身にまとわない、

生まれたままの姿で、春と^{たいじ}対峙した。健康そのものの

引き締まった肉体……

105センチ、Kカップのバストはまだまだ張りがあり、

春との潰し合いを望んでいるようだった。

夏希 「弁償しなよ、この水着」

(ナレ) 春も使えなくなった水着を、ゆっくり足元に脱いでいく。

メリハリのある肉体が徐々にあらわになった。

そして、春の105センチ、Kカップの爆乳が、

身体の動きに合わせてプルプルと震えた。

夏希を挑発するように……

春 「……もう着る機会、ないでしょ？」

お前が負けるんだから」

(ナレ) 全裸の爆乳美女同士が向かいあった。

夏希 「そろそろ、決着つけようか」

夏希 「ねえ、先生。部室使っていいよね。肌が焼けちゃう」

(ナレ) 夏希があなたの方へ裸で歩いてきた……

後ろから春が続く……

夏希 「それに、ここからの闘い、先生見ない方がいいよ」

春 「……えげつない潰し合いになる。

見せられるようなもんじゃない」

夏希 「じゃあ行ってくるね。

このドアから出てきた方が先生の彼女だから。

ちゅっ！（キス） 私が帰ってくるのを待ってて♡」

春 「……ちゅ♡（キス）

先生、途中で止めたら許さないから。

終わった後、私といっぱいセックスして♡」

S E /// ガチャ

(ナレ) ドアが閉まり、部室は2人だけの空間になった。

そこから2時間、勝者がドアを開けるまで、

あなたは叫び声と喘^{あえ}ぎ声、

悶^{もだ}え苦しむ声を部屋の外から聴くことになった。

///トラック② 終

///トラック③

夏希 「ぶはっ……! 水、飲み終わった？」

春 「……ぷっ。……いつでもいい」

(ナレ) 2人が口元を拭って、ゆっくりと近づいた。

柔らかい爆乳がむにゅっと潰れる位置まで、

一気に接近する。相手の吐息が顔にかかる距離だ……

夏希 「ルール覚えてる？」

春 「……おっぱいで絞め殺した方が勝ち」

夏希 「そう。そのためなら、噛みつきと目潰し以外、
なんでもするから」

春 「……わかってるし、私もやる」

夏希 「ふ～ん、楽しみ」

(ナレ) 2人は一歩相手から離れた。だが、目を離さない。

夏希 「それじゃあ……やろっか……ッ」

夏希 「うぐっ……!？」

春 「ふんんんッ！」

(ナレ) 始まった瞬間、春は頭から夏希の腹に突っ込んだ。

ロッカーに背中からぶつかるが、夏希は倒れない。

夏希 「いいねえ……決闘^{けっとう}って感じ……」

春 「はうううううッ♡♡」

(ナレ) 春のアナルに夏希の指がねじ込まれた。

その指で、春の中を掻^かきまわす……

春 「おッ♡ “おおおッ♡」

夏希 「んんんんおおおッ!!」

春 「あ……ああッ……！」

(ナレ) 春の身体^{からだ}が持ち上げられた。

そして春の身体^{からだ}を床に投げ倒す

春 「んああッ!!」

夏希 「はあはあ……お腹への頭突き……結構効いたよ♡」

(ナレ) 正面から夏希は覆いかぶさった……

胸に胸を当て、手足を絡めていく……

夏希 「おかえし……♡」

春 「……ガッ! ぐッ……! ぼおえええええええッ!!

“ええッ……おええッ!!」

(ナレ) 飲んだ水を吐き出すほどの、強いプレスだった。

行き場を無くした春の胸が潰れ、押し広がる。

夏希 「はあはあ……汚な♡ もう死ぬんじゃない？」

春 「……んえええッ……!! か、かあ……! ぐ……ッ

ふうふう……重いだけ……」

夏希 「ふふ……メス豚が……ッ！」

春 「〴〵 おおおおッ!! ンおえええええッ!! はあはあ!

”ああああッ!!」

(ナレ) 苦しみなながらも、春は夏希の後頭部を^{かか}抱えた。

そしてなんと、自ら夏希の唇に吸い付き、

空気を吸い上げた。

夏希 「んぐうううううう!! グうううッ!! ぶうううッ!!」

春 「んちゅうううううう!! じゅるうううううう!!

んんんんんんんんッ！」

(ナレ) 捨て身の責めは、功を奏した。

一気に夏希の余裕がなくなり、春に振り落とされる。

夏希 「ぺっ! 気持ち悪い攻撃ばっか」

春 「はあはあはあはあ……ぺっ! こっちだって我慢してる」

(ナレ) 2人は休むことなく、今度は胸からぶつかり合った。

相手をひっくり返すため、

互いの秘部^{ひぶ}に指を入れて、持ち上げ合う。

夏希 「 ああああッ♡ “あああああッ♡ “あああああッ♡

逝けええエッ! んあッ♡ あああッ♡ はあはあはあ♡

はあはあはあ♡ “おおおおッ♡」

春 「はあはあはあ♡ ああああッん♡ まける……もんか……

“おほおおッ♡ おまえ、なんかにい……! “ああ♡

ああ♡ はあはあはあはあ♡」

(ナレ) 命がけの力比べ、そして逝かせ合いは……

夏希 「 オオオッ♡!! おほおおおおッ♡♡!! (絶頂)」

(ナレ) 春に軍配^{ぐんぱい}が上がった。

春 「……ふんんんんんッーッーッー!!」

(ナレ) 夏希の身体が持ち上がり、潮を噴きながら投げ飛ばされた。

頭から床に落とされ、大の字に倒れ込む。

夏希 「 おおお……ッ♡ ああ……♡ くうう……!

はあはあはあ……はあはあ……」

(ナレ) 次に夏希が目を開いたとき、すでに春の巨大な胸が、

顔を覆いつくしていた。

夏希 「ぶぐうううううッ!! うっッ……!! ぶうううッ!!

ぶぐうう!! ぶぐうううう!!」

春 「……はあはあはあはあ……! 死ねえ……ッ!

……先生は……私のもんだ!」

夏希 「ぶぐッ……! ん、んん……ぶ……ぐ……!」

春 「おっぱいだって……わたしのほうが……

おおきいんだから! はあはあはあ!

こ、こほおおッ!」

(ナレ) 夏希の両手が春の首に届き、喉を絞めた。

春 「んぐ、”おおおお……! か、かああッ……!」

夏希 「ぶはああああッ! ぶはああああッ! ぶはああッ!

ぶはああああッ! あんたなんかに! 絶対……

はあはあはあッ! 負けないから!

かあああ……ッ!!」

(ナレ) 春も喉を絞め返した。

春 「けほっ!! か、かあ! か……ッんえええッ!!

うええええッ!」

夏希 「お、おえええ……ッ！　ぐ、ぐう……！　んえッ！

うおえええッ!!」

(ナレ) 春も夏希も気を失う寸前まで、喉を絞めあった。

しかし、ほんの一瞬先に春が限界を迎え、

夏希の上から落ちた。

夏希 「はあはあはあはあ！　けほっ！　けほっ！

はあはあ！　まだ……まだ……」

春 「けほっ！　けほっ！　かぁッ！　かはっ！

ぜええ……ぜえ……ぜえ……！」

夏希 「どっちか……しぬまでよ……」

春 「んぶぐう!!　うえええええッ!!」

(ナレ) 夏希は床を這って春の顔に近づき、胸で押し潰した。

乳首が春の眼^{がんきゅう}球に触れる……

まるで春に見せつけるように。

夏希 「……はあはあはあ！　あああ！　あああ！

私のおっぱいの……勝ちよお！　はあはあはあ！」

春 「んん……ッ!!　かッ……！　ぶううッ……!!

ぶぐっ……!!　ぐううう……！　ああ……！」

(ナレ) 暴れる春をしっかり押さえつける夏希。

春の身体が震え始めた……

夏希 「^{けいれん}痙攣してるよ……♡はあはあはあ……

あきらめなよ……! はあはあはあ! あははあ♡

おしっこも噴いちゃったね♡」

春 「ゝ おッ……んぶう………っ……ぶうう……

ん、んんんんんんんんん!」

夏希 「ゝ お、おおおおおッ!!」

(ナレ) 夏希の股間に春の膝がめり込んだ。1発どころではない、
2発、3発と蹴り込んだ。

夏希 「あッ!ゝ ああああああああああーッ!!」

(ナレ) 夏希が股間を抑えて転げまわる。

春 「ぷはあああっ! ぷはあああっ! んっぷ!!

おええええええッ! はあはあはあ! はあはあ!

はあはあ……」

夏希 「はあはあはあ! があッ! ぐ、ぐううう!」

(ナレ) ^{もだ}悶え苦しむ夏希の後ろから、春は飛び掛かった。

背中にぴったりと張り付き、腕で夏希の首を絞めつける。

夏希も何とか首を守るために、腕を外そうとする。

必死の攻防だった……

2人の荒い呼吸だけが、部屋に響いた。

夏希 「あああ…… “あああ…… はあはあはあ！

おええっ!! あああ！ あっ！ はあはあはあはあ！

ふんんんッ……！ んぐ！ がッ！ あああ！ ああ！

おえええッ!! あああ！ はああ！ はあ！」

春 「あああ！ あああ！ はああ……はあ……はあ！

く、くうううう！ ……ふんんッ！ はあはあはあ！

あああ……！ あああ……！ ふんっ！ っはああ……

はあはあ……！ ぐうううう……！」

(ナレ) 春は夏希の身体をひっくり返した。

裏返った亀のように、一層^{いっそう みうご}身動きが取れない。

夏希 「 あああ！ あああ！ “おっ！ “おおッ……！

……………がっ……………かあ……………！」

春 「はあはあはあッ……！ はあはあッ！ はあはあはあ！」

(ナレ) だが、夏希はあがき続けた。

春 「あああああーッ♡♡ あああッ♡ はああああ♡」

(ナレ) 背後にいる春の股間を、指で愛撫^{あいぶ}する。

夏希 「……はあはあ……あああ……いけ……」

春 「……ちから……が……♡ くうう♡ あああ♡」

夏希 「はなせえ……ンン……」

春 「あええ♡ いや……だあ……アッ♡ あ、ああ♡

あえええ♡♡ はあはあ♡ はあはあ♡」

夏希 「んんんッ♡ はうううーッ♡ はあ♡ はあ♡

はあ♡ あああ♡ あああ♡ あああもう♡

ああああ!! いっくう♡」

(ナレ) 春も手マンを仕掛けた……

限界を超えた手マン合戦……今後は、

夏希が押し勝った。

春 「んんんッ♡♡ ああああーッ♡♡ (絶頂)」

(ナレ) 愛液^{あいえき}を盛大にまき散らす……

しかし、春もタダでは倒れなかった……

両手で夏希の両乳首を掴み……

夏希 「〴〵 おおおッ♡ “おおおおおーッ♡♡ (絶頂)」

(ナレ) 夏希の乳首の先端を指で捻りあげた。

今度は夏希の愛液が、宙に舞った。

絶頂を迎え、すぐには身体が動かせない2人……

夏希 「はぁ♡ はぁ♡ はぁ♡ はぁ♡ はぁ♡ はぁ♡」

春 「はぁ♡ はぁ♡ はぁ♡ はぁ♡ はぁ♡ はぁ♡」

(ナレ) 夏希が春のほうへ身体を向けた。

闘いはまだ、終わっていない。

夏希は春の腹に両手を当てた。

そして手の甲に思い切り体重をかける……



春 「ぼおおッ!! ぼええええッ!!」

(ナレ) 春の唾液が噴き上がった。

しかし、すぐに夏希の後頭部に手を回し、

思い切り膝を振り上げた。

夏希 「ごえええッ!! んっぷ……お”えええええッ!!」

(ナレ) 夏希の腹が膝でえぐられる……

夏希も唾液をぶちまけた……

それでも攻撃を続ける……

春の腹に今度は、上から膝を突き刺した。

春 「 んん”おええええええッーッーッ!! !!」

(ナレ) 春も息も絶え^た絶え^だの中、もう1発膝蹴りを打ち返した。

夏希の股間に、膝が命中した。

夏希 「かああああああッ!! ”おおおおおッ……ッ!

”おおおおおッ! ……こわ……れる……!!」

(ナレ) しかし、春の膝蹴り^{ひざげ}と相打ち^{あいう}になる形で……

春 「 んおおおおおッ!! ”あああッ……! ”ああああ!

”あああああッーッーッ! くっ……これ……やばい……

”あああッ!!」

(ナレ) 夏希の膝蹴りが春の股間に深く入っていた。

2人は悶えた……身体がまともに動かない……

夏希 「はあはあはあ! あああううう!!」

春 「あああ……! あああ……! あううううッ!!」

(ナレ) ダブルノックアウト。

スポーツの試合であれば、試合続行不可能な状態だ。

だが、これは違う……

夏希 「どちらかが……」

春 「……絞め殺すまで」

(ナレ) 2人は噛みつくように抱き絞めあった。

出せるすべての力で、胸を合わせ絞め潰し合う……

春 「あ“え”えええッ!! “おうえええええッ!!」

夏希 「げえええッ!! おえええッ! おえええッ!」

(ナレ) 吐いた胃液が、相手の肩から背中に流れ落ちた。

ここから決着が付くまで……

彼女達は、永遠に感じるような絞め殺し合いを繰り返した。

(ナレ) 春が夏希を下にして、倒れ込んだ。

夏希 「ぶ、ぶぐ! “おええ! げええええッ!」

春 「……はあ……はあ……はあ……」

(ナレ) その数秒後に、夏希が上下を入れ替える。

春 「 あええッ！ おええッ！ おうええええッ!!」

夏希 「はあ……はあ……はあ……！」

(ナレ) 夏希が胸を浮かせ、春の顔面に叩きつける。

そのまま春の一切の呼吸を許さないよう、絞めあげた。

春 「 おご……ぶ……ぶう……ぶっ……ぶ……」

夏希 「おちろ……おちろ……おちろ……落ちろお……!!」

春 「あああ……!! が、があ……ぶええ……ぶうう！

んぶううう……！」

(ナレ) 夏希が責めるとき、春が耐えしのぎ……

夏希 「おえええッ!! ぶううう！ ぶうううう！

んぶううううう！ んんぶうううううう！」

春 「ぶはああああッ！ ぷはああああッ！

あああ！ あああ！ あきら……めろお……！

おまえが……しねえ……！」

(ナレ) 春が責めるとき、夏希が耐えしのいだ。

このサイクルは段々と長くなっていき……

夏希 「はあはあはあはあ!! おえええ! えええ!

はあはあ!! もう……すこし……!!

はやく……あああ! あああ! ちっそく……

……しろ……!」

春 「おお……ぶ……ぶぐ……ぶ……うええ……!

んぶ……グ……」

(ナレ) 両者が地獄を味わった……

春 「はあはあはあはあ!! あうう! ああ! ああ!

はあはあ! おまえが……きえろ……!

はあはあはあ! おまえになんか……はあはあ!

ゆずるもんか……!! あああ! はあ! はあ!」

夏希 「ぶっ……ぐ……んええ……ぶう……ッ! つぶう……!

ぶええ……! おええ……っ……」

(ナレ) 永遠に続くシーソーのように……

夏希 「 あああッ! “ああああ! もう……くたばれ!!

つぶ! ……お、おえええッ!!」

(ナレ) 生死を賭けた潰し合いが繰り返された……

春 「ぶえええッ! あああ! あああ! はあはあはあ!

うええええッ! はあはあ! しねえ……!

あああ! あああ! もう、死んで!!」

(ナレ) もうほとんど意識はなかった。

春 「おええええっ!! んん! ううええええッ!!」

夏希 「おうえええええええええッ!!」

(ナレ) 目の前のライバルを、胸で絞め殺す。

それだけを本能的に続けた……

春 「あああ……!! あああ! あああ! あああ!

夏希 「はあはあ! お、おえええッ!! あああ……あああ!

(ナレ) そしてついに……

一人の^{おんな}女に……

限界が訪れた……

春 「はあはあはあはあはあはあ……はあはあはあ!

……遠慮……しないから……」

夏希 「う……………ぶ……………ぶ……………ッ……………ぐ……………う……………」

(ナレ) どう頑張っても、春の身体が動かない。

春の爆乳によるプレスを……

どうやっても返すことができない。

春 「はぁはぁ……………わたしの……………勝ち……………」

(ナレ) 夏希は春の爆乳に、敗北した

大粒の涙が、春の胸を伝って床に流れた。

夏希 「う……うう……………ううっ……！」

泣き声さえ上げられない。

そしてさらに、酸欠の苦しみが身体中を襲った。

夏希 「か……かぁ……ッ！ んうう……!! ぶ!!」

(ナレ) 春は絞めつけを緩めない。一步間違えれば、

自分がこうなっていたかもしれない。

痙攣する夏希の身体を、容赦なく絞め潰した。

夏希 「……あ……………”んえ……………っ……げえ……！」

ぶ……ぶぐう……ッ!!」

(ナレ) まもなく、夏希の身体が許しを請うように尿を噴き上げた。

これは夏希の意志ではなかった。

動物の生存本能が働き、勝手に命乞いをしていた……

春 「…………きたない」

(ナレ) 春は意にも介さず、夏希^{かい}に一切の呼吸を許さない

夏希 「…………う……う……あ…………! あうあ……!
う……えう……!」

(ナレ) 夏希^{よわよわ}が弱弱しく春の胸をタップした。

これも夏希の意志ではなかった。

からだ^{からだ}はすでに、春の胸に^{くっぶく}屈服していた……

しかしこれも……

春は受け入れない。

春 「……おっぱいの絞め殺し合いでしょ……?」

春 「……どっちか死ぬよね?」

夏希 「んえぐ……ッ!! ……えう!! ぶ、ぶ、ぶっ!!

げぶう!! ぶ……ぶう……ッ!! かあ……ッ!!

……ぶうう!! ……………ぶ……う……!!

……………」

(ナレ) 夏希の意識は無くなった。

身体が3回大きく^{けいれん}痙攣し、尿をまき散らした。

その後はぐったりと動かなくなり、

そんな夏希にさえも、

春は2分間、胸によるプレスを継続した……

///トラック③ 終

///トラック④

春 「……入って。……私の勝ち」

(ナレ) ひどい姿で、あなたの前に春が出てきた。

言われるがままに、部室に入ると、

部室の中はメスのにおいが充満していた。

そして、春よりさらに体液にまみれ、

ボロボロになった夏希が横たわっていた。

春 「……まだ生きてる。……たぶん。」

春 「……それより」

(ナレ) 春はあなたを押し倒した。

春 「……こいつと先生が、やってるのが不愉快^{ふゆかい}。

……おっぱいだってこいつより大きい」

(ナレ) あなたと春の性器がゆっくりと交わった。

春 「……やろ、先生♡ こいつの顔の前で♡

んんんッ♡ はああああああッ♡♡」

(ナレ) 春は積極的に腰を打ち付けた。

春 「うんッ♡ うんッ♡ うんッ♡ うんッ♡ うんッ♡

……ぎもちいい♡♡ “おおおおッ!!」

(ナレ) 夏希に見せつけるように、声をあげる。

春 「あああ♡ あああ♡ あああ♡

気持ち良くしてくれたお返し♡

……ふふ♡ これがいいでしょ?♡」

(ナレ) あなたの顔が柔らかい胸で包まれた。

春 「……空気吸いたいなら、もっと逝かせて♡♡ 先生♡

はううううううう♡♡!!」

(ナレ) 横たわり涙を流す夏希を尻目に、春はセックスを続けた。

春 「……先生♡……もう絶対、離さない♡♡

はああ♡ んんん♡ 先生の彼女は……

私だから……!! ああああッ♡ もっと♡

壊してええ♡」

春 「ゝ ああああああーッ♡♡ (絶頂)」

(ナレ) あなたに抱き着くように、春は倒れた。

真夏の部室に、

勝者と敗者の残酷な対比が、

はっきりと刻まれた。

///トラック④ 終